

## 満洲語文語における「取りに(連れに)来る」を意味する動詞について：『満文金瓶梅』を資料として

早田, 輝洋

<https://doi.org/10.15017/2332562>

---

出版情報：文學研究. 90, pp.89-130, 1993-03-25. 九州大学文学部  
バージョン：  
権利関係：

## 満洲語文語における

### 「取りに(連れに)来る」を意味する動詞について

——『満文金瓶梅』を資料として——

早 田 輝 洋

0. 「取る(持つ, 連れる)」と「行く」「来る」について, 日本語的感覚からは通常(1)の四つの組合せの言い方が考えられる。

(1) 持って(取って, 連れて)行く	持って(取って, 連れて)来る
取りに(連れに)行く	取りに(連れに)来る

満洲語の場合, 今「持つ」「取る」「連れる」の違いは無いものとすれば, 満洲語文語の普通の辞書の記述では, (1)に対応して(2)のようになると思われ, 「取りに来る」「連れに来る」に当る単語が見つからない。

	—行く	—来る
取って(連れて)—	gama-	gaji-
取りに(連れに)—	gana-	?

例えば, 羽田亨『満和辞典』京都(1937)では, (3)のようになっている。

- (3) Gamambi 持っていく. 取っていく [12. 取送: 拏去]  
 Ganambi 取りに行く [12. 取送: 取去]  
 Gajimbi 持って来る. 取って来る [12. 取送: 拏来]

一般に満洲語では「～しに行く」「～しに来る」は, (4)のように動詞語根にそ

れぞれ-ne- (-na-, -no-), -ji- を付して作られる (その際, 多少の音変化を被ることがある)。

- (4)           tuwa-       見る  
              tuwana-   見に行く  
              tuwanji-   見に来る

従って曩の例「取りに (連れに) 行く」「取りに (連れに) 来る」は, それぞれ(5)のようになることが期待される。

- (5) gai- <取る, 持つ, 連れる> + -na- <に行く> → gana-  
      gai- <取る, 持つ, 連れる> + -ji- <に来る> → gaji-

gana- は期待どおり「取りに行く」等を意味するが, gaji- は(3)に見るように, 少なくとも羽田の『満和辞典』には, (5)から期待される「取りに来る」等の記述は無く, 「取って来る」等と記述されているだけである。満露, 満獨, 満英では gaji- は, どう記述されているのであろうか。Zaxarov の満露, Hauer の満獨, Norman の満英の gaji- の記述を(6)に挙げる。

(6)

満露: Zaxarov, Ivan (1875) Polnyj Man'žursko-russkij Slovar'.

Sanktpeterburg.

gaji-mbi; ha, re, be, de; ot gaimbi; prinosŭ, podaju sjuda, dostavljaju.

sm. morin —

満獨: Hauer, Erich (1952-1955) Handwörterbuch der Mandschusprache.

Tokyo-Hamburg-Wiesbaden.

gajimbi (gaime + jimbi) (her)bringen. 【用例略】

満英: Norman, Jerry (1978) A Concise Manchu-English Lexicon.

Publications on Asia of the School of International Studies, 32.

満洲語文語における「取りに(連れに)来る」を意味する動詞について(早田)

Seattle-London.

gajimbi (imperative: gaju) to bring, to bring along

(6)に見るとおり, gaji- は同じく「取って来る」「連れて来る」の記述しかなく, 「取りに来る」「連れに来る」の記述は無い。清朝時代の辞典類の gaji- の記述はどうかというと, (7)の如くである。

(7) 大清全書 (康熙22年【1683】序)

gajimbi 拿来語乃已見之物用也。行取。

御製清文鑑 (康熙47年【1708】序)

gajimbi gūwa ba -i jaka be ubade isibure be, gajimbi sembi.

【「他 所のものを此処に齎すのを gajimbi という」】

清文彙書 (乾隆16年【1751】初刻)

gajimbi 拿来【。】行取

清朝時代の代表的な三辞典でも, やはり gaji- は「取って来る」「持って来る」「連れて来る」でしかないようである (『大清全書』と『清文彙書』にある「行取」は, 最近の錫伯語の辞書などから推測するに, 「行って持って来る」のような意味かと思われる)。そして現在最新の満洲語の辞書, 劉厚生・関克笑・沈微・牛建強 (1988)『簡明滿漢辞典』(河南大学出版社)には gajimbi の見出語が無い。

このように殆どの辞書の記述が——記述があっても——(2)のようになっている中で, 福田昆之 (1987)『満洲語文語辞典』が gajimbi を(8)のように記述しているのは異例である。

(8) (1)持ってくる。持参する。連れてくる。連れにくる。(2)ひったてる。

(3)もたらす。(4)返してもらう。(5) (馬を) 引く。【下線筆者】

即ち, その(1)の中に「連れにくる」を入れているのである。gaji- 全体の記述

の仕方はともかく、「持ってくる。持参する。連れてくる。」の他に「連れにくる」が入っているのは貴重である。ただし、「取りに来る」という訳語は無い。また、gaji- の使役形 gajibu- の記述には、(9)のように、「連れに来させる」等は無い。

(9) (1)持って来させる。持参させる。連れて来させる。(2)持参される。【用例略】

他に、羽田亨(1937)『満和辞典』が、gaji- については、(3)のように「持って来る。取って来る」としか記述していないのに、使役形 gajibu- については、(10)のように「取り来させる」という舌足らずな訳語を入れている。

(10) Gajibumbi 持って来させる。取り来させる [彙：使拿来] 【下線筆者】

その他には、Harlez, C. de (1884) Manuel de la langue mandchoue. の巻末語彙のgaji- に当たるところに chercher となっているのが気になるが、この巻末語彙には gana- の項目も無いし、gaji- に対して chercher とだけあるのは余りにも曖昧である。

以上の如く、満満・満漢・満露・満独・満英および羽田の満和を通じて、すべて gaji- は「取って(持って、連れて)来る」としか記述されていない。僅かに最近の福田の満和の gaji- にのみかろうじて「連れにくる」が載せられているのと、羽田の満和の gajibu- に「取り来させる」があるだけというのは、どうしたことであろうか。

そうなるに「取りに(連れに)来る」「取りに(連れに)来させる」は、実際、どう言ったのであろうか。これらの語彙および関連する語彙についての、手もとの辞書類の網羅的な記述は、ここに挙げるのは煩雑なので、本論末に挙げておく。

現代漢語では、九州大学文学部の漢語を母語とする馮蘊沢君に訊いてみたところ、(11)のようだとのことであった。

満洲語文語における「取りに(連れに)来る」を意味する動詞について(早田)

(11)	一行く	一来る
取って(持って, 連れて)一	拿去	拿来
	去取	来取
取りに(連れに)一	去拿	来拿
	取去	取来(?)
		来拿来

勿論, 具体的な動詞を用いパラフレーズした形で言おうとすれば何とでもなるようではある。『日中辞典』の類を引いてみても——だいたい何と引けばよいのかよくわからないのであるが——見つからない。「に」の項目に「忘れ物を取りに戻る」を「返回拿落下的東西」とするような例はある。また『中日辞典』の類で, ‘拿去’を「取る。受取る」とし, ‘你把衣服放在這里, 過兩天拿来拿去罷!’ 「服をここに置いて, 二日後に取りに来てください」の例を挙げているものもある。‘拿来’が時に「持って来る」という訳をつけて載っていても‘拿去’は載っていない。筆者の手元の漢語引きの辞書類には, 清朝時代の資料に出て来る‘拿来’‘拿去’‘来取’‘去取’‘取去’‘行取’等の単語は殆ど載せられていない。‘去取’に「取捨選択(する)」の意味は載っていても, 「行って取る」「取りに行く」等の意味は載っていない。大きな辞書に, ‘行取’が「又趨」「明清時, 地方官經推薦保举后調任京職」(『漢語大詞典』)「外省の地方官の治績良好なものに京秩を與へること。」(『諸橋大漢和』)とある程度で——「又趨」は気になるが——内蒙古自治区科学院蒙古語言研究所の『漢蒙詞典』にもこれらの見出語は載せられていない。ただ, 近年(1989)ウルムチで発行された漢語錫伯語辞典『漢錫簡明対照詞典』にのみ——清朝時代の資料から項目を選んだのか——‘拿来’‘拿去’‘去取’‘取去’‘行取’の見出語が載せられている。本論末の当該辞書の記述参照。

さて, それでは(2)の満洲語 gama-·gana-·gaji- 及びそれらの使役形や命令形

が実際にどのように『満文金瓶梅』で用いられているか、僅かに記述のある gaji- の「取りに（連れに）来る」の用法は如何なるものなのか、どの程度あるのか、実態を調べてみたい。

なお、gonggi- という動詞があり、羽田の満和辞典に「取って来させる. 持って来させる [12. 取送：使人去取]」と記述され、福田の満和辞典には「[使人去取]. 取りにやる. 取りに行かせる. 連れに行かせる. [T2【太宗老檔】—2320]」と記述されて、羽田の満和辞典とは違う意味の単語とされているが——「取りに行かせたが、取って来なかった」は良いが、「取って来させたが、取って来なかった」は駄目、従って、「取りに行かせる」と「取って来させる」は違う意味である——この単語は、『満文金瓶梅』には見つからなかった。この単語の意味は、清文鑑の記述を見た限りでは、福田の訳が当たっているように思われる。即ち、gūwa bade bisire jaka be niyalma takūrafi ganara be, gonggimbi sembi. 【他所にあるものを人を遣って取りに行くのを gonggimbi という】

## 1. gama-・gana-・gaji- を含む典型例

まず『満文金瓶梅』におけるこれらの単語の典型的な使用例を示そう。第46回、呉月娘はじめ西門慶の妻妾たちが呉大舅夫人のところでお酒を飲んでいると、外は雪になり寒くなってきた。そこで小厮に命じて毛皮裏の外套を、「取りに行かせる」の「持って来させる」の、というくだり。こんな動詞がよく出てくる。原滿洲文の下に直訳に近い訳語を添えておく。なお、添えた漢文は崇禎本で、1990年三聯書店発行の『新刻繡像批評金瓶梅』を校点もそのまま用いた。ただし複製本と照合して誤りをただした処がある。『満文金瓶梅』の底本は未だにはっきりしていない。詞話本でないことは明かであるが、竹坡本ほど削られてはいない。満文訳の時に省略せられたと思われるところを除けば、崇禎本はかなりよく合うので、今假に崇禎本を対照漢文として挙げることにした。

(12)

u-yuwei-niyang hendume, ainu uttu gaitai šahūrun ohoni

呉月娘は言います、「なんでこんなに急に冷えてきたんでしょうね」

月娘便道：「怎的這一回子恁涼凄凄的起來？」

lai-an dalbade bifi hendume, tule abka tulhušefi nimarambi.

来安が傍らにいて申します、「外は曇って来て雪が降っております」

来安在旁說道：「外邊天寒下雪哩。」

meng-ioi-leo hendume, gege sini etuhengge (10丁裏) /nikeliyen akūn.

孟玉樓が申します、「おねえさまの着ているの薄いのじゃありません？」

孟玉樓道：「姐姐，你身上穿的**不單薄**？」

bi elemangga emu kubun -i kurume ①■gajihabi. tuttu seme muse

私のほうは木綿のうわかけを持って来ていますけど。それでも私たち

我倒帶了箇綿披襖子來了。咱這一回，

dobori šumin ome beyerakūn. u-yuwei-niyang hendume, nimaraci

夜が更けたら寒くありませんか」呉月娘が言います、「雪が降っている

夜深不冷麼？」月娘道：「既是下雪，

tetendere, haha juse be emke takūrafi boode jibca ②■ganabufi

のなら，小廝を一人遣ってうちに毛皮裏の外套を取りに行かせて

叫箇小廝家裡取皮襖來

muse etuki. lai-an ekšeme wala geneffi, dai-an -i baru hendume,

私たち着ましょう」来安は急いで下がって行って、玳安に言います，

咱每穿。」那來安連忙走下來，對玳安說：

nainai emu niyalma be boode jibca ③■gana seme henduhe.

「奥さまが，誰かにうちに毛皮裏の外套を取りに行けって」

「娘分付，叫人家去取娘們皮襖哩。」



tede dai-an uthai kin-tuug be si ④■ganame gene, bi ubade  
すると 玳安が すぐ 琴童 に「お前 取りに行け。おれは ここで

那玳安便叫琴童兒：「你取去罷，等我在這裡伺候。」

aliyara sere jakade, kin-tung inu daciлахākū ŷuwe boode  
待っているから」と言いますと、琴童 も 問い糾すことなく まっすぐ うちに

那琴童也不問，一直家去了。

genehe, goidahākū, u-yuwei -niyang, pan-gin-liyan de jibca  
飛んでいきました。やがて 呉月娘 は、潘金蓮 が毛皮裏の外套を  
少頃、月娘想起金蓮没皮襖、

akū be gūninafi, lai-an -i baru fonjime we jibca ⑤■ganaha.  
持っていないのに 気付いて 来安に 訊きます、「誰が 外套を 取りに行ったの?」

因問來安兒：「誰取皮襖去了?」

lai-an hendume, kin-tung ⑥■ganaha, u-yuwei-niyang hendume, minde ainu  
来安が 申します、「琴童 が 取りに行きました」呉月娘が言います、「私に 何故

來安道：「琴童取去了。」月娘道：

fonjihākū uthai genehe. meng-ioi-leo hendume, (11丁表) / teike emu gisun  
訊ねもしないで そのまま 行っちゃったの」孟玉樓が申します、「さっき ひと こと

「也不問我，就去了。」玉樓道：「剛纔短了一句話，

eden ohoi, meningge be ⑦■gajiburakū bici sain bihe.

足りなかったわね。私たちの を 取って来いと言わなければ 良かったんだけど。

不該教他拿俺每的，

u-niyang de jibca akū be dahame, damu gegengge be  
五奥さま には 毛皮裏の外套が 無い のだから、ただ おねえさまの だけ を

他五娘没皮襖，只

⑧■gaju sehe bicina u-yuwei-niyang hendume ainu akū

取って来い と言ったら良かったわ」呉月娘が言います、「どうして無いのですか。

満洲語文語における「取りに(連れに)来る」を意味する動詞について(早田)

取姐姐的來罷。」月娘道：「怎的没有？

gūwai damtulaha emu jibca bihe. terebe ⑨■gajifi ninggucingge  
人様の 質入れした 毛皮裏の外套が ありますよ。あれを 持って来て 六ちゃん  
還有當の人家一件皮襖，取來與六姐

de etubuci wajiha sefi, fonjime, dai-an tere aha, i ainu genehekū,  
に 着せればいいわ」と言って訊ねます，「玳安の 奴，自分は なんて 行かないで  
穿就是了。」因問：「玳安那奴才怎的不去，

ere aha be takūrafi unggihe, si terebe jio se seme emu  
あの下郎を 使って 行かせたの？ お前，あれに 来い と言いなさい」と 言っ  
却使這奴才去了？ 你叫他來！」

derei dai-an be hūlame ⑩■gajifi, u-yuwei-niyang hūsun -i ebsihe udu  
て 玳安を 呼んで [連れて] 来て，吳月娘は 思いつきり 二こと  
一面把玳安叫到跟前，吃月娘儘力  
gisun toofi hendume, (11丁裏) / 【中略】 u amba hehe nakcu hendume,  
三こと罵って言います。 【中略】 吳大舅夫人が言います，

罵了幾句道：【中略】 吳大娘子道：

dai-an si kemuni sini eniye sei jibca be hūdun ⑪■ganarakū ainambi  
「玳安，お前まだ [お前の] 奥さまがたの外套を早く 取りに行かないで どうするの？」

「玳安兒，還不快替你娘每取皮襖去。」(早く取りに行ったら?)

sefi, geli hendume, gege si (13丁表) / tede ya jibca be ⑫■gajifi,  
と言って更に申します，「おねえさま，あの者に どの 外套を 持って来て，  
又道：「姐姐，你分付他拿那裡皮襖

u-niyang de etubure babe hendufi unggicina. pan-gin-liyan alime gaifi  
五奥さまにお着せするのか仰って行かせたらどう？」潘金蓮が引き取って  
與他五娘穿？」潘金蓮接過來

hendume, gege ume ⑬■ganabure. bi jibca  
申します，「おねえさま，取りに行かせないで 下さいまし。私，毛皮裏の外套は，

説道：「姐姐，不要取去，我不穿皮襖，

eturakū. terebe booci mini kurume be ⑭■gajibuci wajiha,  
着ません。その子にうちから私のうわかけを持って来させるだけで結構ですわ。

教他家裡稍了我的披襖子來罷。

niyalmai damtulahangge sain biheo, ehe biheo, suwayan indahūn -i sukūi  
ひとの質入れした物は良かれ悪しかれ赤犬の皮の  
人家當的，好也歹也，黃狗皮  
gese, beyede etuhede elemangga niyalma de basubumbi. tere anggala  
ようなもので，身に着けたらかえってひとに笑われますわ。そればかりか  
也似的，穿在身上，教人笑話，

inu enteheme jaka waka, amala kemuni joolifi ⑮■gamambikai, (13丁裏) /  
永久の物でもありません。後でやはり質受けして持って行くんですから。

也不長久，後還贖的去了。」

(12)の例でおよそのことは解ると思われるが，これだけで gama-・gana-・gaji-を  
はじめ，その使役形や命令形も或る程度見られる。番号を付したものを表にし  
て示せば，(13)のようになる。

満洲語文語における「取りに(連れに)来る」を意味する動詞について(早田)

(13)

gama-	gana-	ganabu-	gaji-	gajibu-
			1 モツテキタ	
		2 トリニイカセテ		
	3 トリニイケ			
	4 トリニイケ			
	5 トリニイッタ			
	6 トリニイッタ			
				7 トツテコイトイワナイ (トツテコサセナイ)
			8 トツテコイ	
			9 モツテキテ	
			10 ツレテキテ	
	11 トリニイカイ			
			12 モツテキテ	
		13 トリニイカセル		
				14 モツテコサセル
15 モツテキク				

持って行く	取りに行く	取りに行かせる	取って来る	取って来させる
			持って来る	持って来させる
			連れて来る	

以上のうち⑦は問題であろう。確かに漢語の‘教・叫’は満洲語では使役動詞(動詞語幹 + -bu-)で訳されることが多いが、時には(14)のように‘命令形 + se-’或は‘命令形 + seme hendu-’[‘~しろと言う’]という形で訳される。

(14)

○mimbe menggun ■gajime jio, amba nainai de aca seme henduhe bihe.

私に銀子を取りに来い、大奥さまに会え、と仰っていました。

許下今日教我來取銀子，就見見大娘。（『満文金瓶梅』90回12丁裏）

○te kiyoo be amasi unggi, cimari mimbe ■gajime jio se.

今轎を返しなさい、あした私を迎えに(ツニ)来て(コイ)と言ってね。

轎子回去，教他明日來接罷。（14回23丁表）

○efu etuku ■gajime jifi, simbe genefi taktu -i tulergi uce be

お婿さんが着物を取りに来ていて、あなたに行って二階の外側の戸を

nei sembi, (33回7丁裏)

開けて(7知)って。

姐夫在那邊尋衣裳，教你去開外邊樓門哩。

○umai sarkū bade mimbe aibe ala sembi,

全く知らないのに私に何を言えと言うんでしょう。

並不知道 教我告訴什麼（『清文啓蒙』卷二 兼漢滿套語三丁裏）

また現代漢語では、一見「彼を行かせたが、彼は行かなかった」に見える「叫他去，他没去。」が可能なので、この文は「彼に行けと言ったが、彼は行かなかった。」に近い（しかし、この文の「叫他去」の次に「了」なり「過」なりを入れると不可になる）。即ち、漢語の[教・叫+動詞] = 満洲語の[動詞の使役形]であり、また漢語の[教・叫+動詞] = 満洲語の[動詞の命令形+se- ~ seme hendu-]である。だからといって、満洲語の[動詞の使役形] = 満洲語の[動詞の命令形+se- ~ seme hendu-]という訳にはいかない。日本語でも「～させる」と「～しろと言う」は、さきの「行かせたが、行かなかった」は駄目で「行けと言ったが、行かなかった」は宜しい、という点の違いを有している。満洲語の[動詞の使役形]と[動詞の命令形+se- ~ seme hendu-]（～しろと言う）との関係が日本語の場合より近いかどうか、まだよく確認されていない。

(12)の⑦は「取って来いと言わなければ」と訳したが、-ji-の方向性が薄まって「取りに遣らなければ」という位になっているかも知れない。それならば gana- を用いるべきところと思われるがよくは分からない。すぐ後に示すように(14)にも既に出ている) gaji- には「取りに来る」の意味で用いられる例が見られるのであるが、(12)の⑦の場合は、外套が「こっち」に無いのだから「取りに来させなければ(良かった)」は不可能である。

これら「持ち運び・連れ迎え動詞」は、様々に意味が発展して、特に gama- などは種々の意味に用いられているが、本稿では本来の「持ち運び・連れ迎え動詞」としての使用に限定して報告することにする。

ただこの gama- に関して、福田昆之(1987)『満洲語文語辞典』の gamambi の項の、多々ある訳語のうちに「3) 呼びに来る。案内する。」というのがある。gama- は既述のように「持って行く。連れて行く」であるから、当然、「人を連れて行く」という場面からの意味が出てきて翻訳上「案内する」になるのは宜しいし、豊富な訳語を提供するということで gama- の意味として「案内する」を辞書に挙げることもありうるかと思われるが、「呼びにくる」というのは、gama- という単語の意味としては問題である。実はこれを見て吃驚したのであるが、この辞典にその例が『満文金瓶梅』の用例として挙げられている(15)。

(15)

ajige niyalma be gamafi, わたくしをく呼びにきて> [G【満文金瓶梅】1925 a]

この満文だけ見たのでは「私(小人)を連れて行って」としか読めないのであり、『満文金瓶梅』の19回25丁表を探したが、この用例は見つからない。その近辺に ajige niyalma be gamafi, を探すと、19回24丁裏3行目に見つかった。gamafi の前に■を付して示す。前後を多少長く挙げ、崇禎本金瓶梅の該当部分も合わせ掲げ、本稿の筆者の直訳に近いものを付し、ついでに岩波文庫本の詞話本による訳文(『金瓶梅』第二冊、小野忍・千田九一訳、1978年第一刷)も

後に付けさせていただければ(16)の如くなる。なお問題の動詞, gama-・gana-・gaji- の変化形が出たときには、それに下線を施した。

(16)

goidahakū jakūn biyai tofohon de, u-yuwei-niyang ni banjihā inenggi,

やがて 八 月 十五日 は 吳 月 娘 の 誕生 日です。

一日, 八月十五日, 吳月娘生日,

kejine hehe antaha sa jifi, amba yamun de tecere jakade, si-men-king,  
大勢の女 客 達が 来て 大 広間 に 坐って おりますと, 西 門 慶は

家中有許多堂客來, 在大廳上坐。西門慶

u-yuwei-niyang ni baru gisun gisurerakū ofi, niobome

吳 月 娘 とは 口をきかなく なって おりますので, これみよがしに

因與月娘不説話, 一逕

gise hehe falan -i li-gui-jiyei boode genefi, dai-an be morin

廓 の 李 桂 姐 の 家へ 行き, 玳 安 に「馬を

來院中李桂姐家坐的, 分付玳安:

gama, yamji okdome gaju seme hendufi, 【中略】yamajishūn  
(ウチ-)持って行け。晩に(ウチ)迎えに 連れに来い」と 言いつけて 【中略】日暮れ時

「早回馬去罷, 晚上來接我。」【中略】玳安約至日西時分,

ome dai-an morin gajiha, si-men-king tule genehede, dai-an  
になって 玳 安が 馬を 引いて来ました。西門慶は 用をたしていましたが, 玳 安

勒馬來接。西門慶正在後邊出恭,

be sabufi fonjime, boode baita bio. 【中略】si-men-king, dai-an -i dere

を見て 訊きます, 「家に 何か あったか」【中略】西門慶は 玳 安 の 顔が

見了玳安問道: 「家中無事?」【中略】西門慶因見玳安臉

fularaka be sabufi fonjime, si aibide omiha, dai-an

赤くなっているの を 見て 訊きます, 「お前 どこで 飲んだんだ」玳 安が

満洲語文語における「取りに(連れに)来る」を意味する動詞について(早田)

紅紅的, 便問:「你那裡吃酒來?」玳安

hendume, teike el-niyang, fung-mama be takūrafi, ajige niyalma  
申します, 「さきほど, 二娘(李瓶兒)が 馮ばあや を 使いにして, 私

道:「剛纔二娘使馮媽媽

be ■gamafi nure omibure de, bi bahanarakū  
を連れて行って お酒を 飲ませようとなさいます のに, 私が 飲めません

叫了小的去, 與小的酒吃。我説不吃酒,

seme maraci ojurakū, hacihiyame juwe hūntahan omibure  
と言って お断りしても お聞きにならず, 無理やり勧めて 二杯 飲ませました

強説着叫小的吃了兩鍾,

jakade, uthai dere fularaka, 【後略】

ので 顔が 赤くなったのです。【後略】 就臉紅起來。

さて、八月十五日は呉月娘の誕生日。家にはおおぜいの女客が来て大広間に居並びました。西門慶は月娘とは口をきかぬ仲なので、まっすぐ廓の李桂姐の家へゆき、玳安に、「早いとこ、馬を返すんだ。晩に迎えに来てくれ」といいつけ、【中略】日暮れどき、玳安が馬の轡をとって迎えに来ました。西門慶は奥の厠で用をたしていましたが、玳安の姿を見て、「家になにか変わったことはないか」【中略】西門慶は玳安の顔が赤いを見て、「お前、どこで酒を飲んで来た」「さきほど花の奥さまのところから馮おばさんが■わたくしを呼びに来て、わたくしはお酒をご馳走になりました。わたくしはお酒はのみませんと申し上げましたが、たっのおすすめで二三杯ちょうだいして、顔がまっ赤になってしまいました。(岩波文庫『金瓶梅』第二冊256～257頁)

即ち、西門慶は廓の李桂姐の所に来ていて、玳安が迎えに来たときに玳安と話をしている場面である。家にいた玳安を馮ばあやが迎えにきて二娘(李瓶兒)



の所に連れて行き、酒を飲ませたのである。gamafi が「呼びに来て」なのではなく、「呼びに来て連れて行った」のを漢文で「叫了…去」と表現し、それを満洲語ではかなり忠実に gamafi 「連れて行き」と訳した。岩波版の翻訳では、呼びにきて連れて行った往復行動の前半を訳したものであり、翻訳としては前後関係からそれで後半の行動のあったことも十分に分るから宜しいのであるが、「叫…去」や gama- に「呼びに来る」という意味が有るわけではない。

## 2. gaji-・gajime ji-

(12)の例には、やはり(2)のように「取りに来る」「連れに来る」は出現していない。gaji- は如何にも「持って来る」「取って来る」「連れて来る」のように見える。しかし、実際には(17)のような例が多数見られるのである（既に(14)や(16)にこの意味の用例が出ている）。

(17) gaji- 「取りに（連れに）来る」の例

○jing gisurerede, dai-an tubihe hose ●gajime dosifi, tere duin  
 言っているところへ、玳安が 果物盛りを 取りに入って来ましたが、四  
 nofi -i boode tehe be sabufi (32回7丁裏)  
 人 が 部屋に いるの を 見て、

正説着，只見玳安兒進來取菓盒，見他四箇在屋裡坐着

○lai-an, siyoo-jeo-el -i agūra be ●gajime dosifi hendume, (52回15丁表)  
 来安は 小 周 兒 の 道具 を 取りに入って来て 申します

只見來安兒進來取小周兒的家活，

○niyalma gaji serakū bici, we cihangga ●gajihabio (67回20丁裏)  
 人から 持って来いと言われなきゃ 誰がわざわざ 取りに来るものか。

人家不要，那個好來取的。

○neneme kin-tung dukai tulergi han amba deheme, meng jacin hehe nakcu  
 さっき 琴童が，門外の 韓 大 姨と 孟 二 舅 の 奥さま

満洲語文語における「取りに(連れに)来る」を意味する動詞について(早田)

be solire juwe bithe be ●gajiha de, bufi unggiheo akūn.

をお招きする二通の手紙を取りに来たとき 渡してお出しになりましたか?  
頭里琴童來取門外韓大姨和孟二矜子那兩個帖兒, 打發去了不曾?(72回39丁表)

○uculeci inu tondokon uculerakū, ini booi niyalma ●gajiha  
唱っても身を入れて 唱やしない, 自分とこの使用人が 迎えに(ㄗㄨㄣ)来た  
be sabufi, buda inu jekekū uthai genehe, (45回18丁表)  
のを見ると, ご飯も 食べないで すぐ 行ってしまった。

連唱也不用心唱了。見他家人來接, 飯也不吃就去了。

○baita akū oci tetendere, si ai baita mimbe ●gajiha, (45回15丁裏)  
用事が無いのなら, あなた どうして私を 迎えに(ㄗㄨㄣ)来たの?

既没事, 你來接我怎的?

方向を表す動詞語幹形成接辞 -ji- や -ne- (-na-, -no-) は, かなり方向性が弱くなりがちで, ji 語幹動詞の後には単独の動詞 ji- (来る)が, ne等の語幹の動詞には単独の動詞 gene- (行く)の後続することがしばしば見られる。その場合, ji 語幹動詞・ne (na,no) 語幹動詞には副動詞語尾 -me が後接する。この gajime ji- の形では, 「取りに(連れに)来る」の例が多く見られ, 「取って(持って, 連れて)来る」の例が普通より少なく見えるくらいである。

なお簡略の為, 同じ形の gaji- gajime ji- gaju で「取りに(連れに)来る」の時には●, 「取って(連れて)来る」の時には▲の記号を付けることにする。

以下(18)に gajime ji- で「取って(取って, 連れて)来る」(▲)の例を, (19)に「取りに(連れに)来る」(●)の例を若干挙げる。

(18) gajime ji- 「取って(取って, 連れて)来る」(▲)

○si-men-king, jeng-ai-yuwei-el -i baru hendume, si cimari uthai  
西門慶は鄭愛月兒に言います, 「お前 あしたは  
li-gui-jiyei be ▲gajime jifi, geli emu inenggi ucule. (76回40丁表)  
李桂姐を 連れて来て, また 一 日 唱ってくれ」

西門慶分付鄭愛月兒：「你明日就拉了李桂姐，兩個還來唱一日。」

○jai inengi buda erinde lio doho be ▲gajime jio, enduri de  
あしたの 飯 ときに 劉おめくらさんを 連れて来てくれ。神 様 に  
jalbarime hoošan deijikini (12回36丁裏)  
ご祈祷して お札を 焼いてもらおう。 明日早飯時叫劉瞎來燒神紙。

○asarabuha jaka, fudehe guise horho be ▲gajime jiderakū oci, bi  
預けてある 物や 嫁入り道具の衣裳箱 を 持って来ない と 俺は、  
sini ere garingga be tantahai wambi (89回6丁表)  
貴様、この すべた を 叩っ殺してやるぞ。

不討將寄放粧奩箱籠來家，我把你這淫婦活殺了。

○Urunakū siowei-gu-dz be helnefi, fu bithe, okto be  
必ず 薛 尼 にお願ひに行つて お札 と お薬 を  
▲gajime jio, (40回8丁裏)  
貰つて(モッテ)来てくださいよ。 好歹請薛姑子帶了符藥來。

○amba gegei jibca be inu ▲gajime jio. (46回14丁表)  
お嬢さんの 毛皮裏の外套 も 持って来なさいよ 就把大姐の皮襖也帶了來。

(19) gajime ji-「取りに(連れに)来る」(●)

○gūnihakū pan-gin-liyan, meng-ioi-leo gemu li-ping-el boode tonio  
ところが、潘 金 蓮 と 孟 玉 樓 が 李 瓶 兒 の 部屋で 碁を  
sindame bisire de, siyoo-luwan, meng-ioi-leo be ●gajime jifi,  
打っているところへ、小 鸞 が 孟 玉 樓 を 迎えに(ツレ)来て、  
不想金蓮、玉樓都在李瓶兒房裡下棋，只見小鸞來請玉樓，(22回7丁表)

○emu inengi cucu caca seme niyalma -i gisurere be donjici. lai-wang  
ある 日 ひそひそ と 人 の 喋るのを 聞きますと、「来旺  
be tucibufi, dukai jakade, etuku pijan ●gajime jihe bihe.  
は(牢から)出されて、門 前に 衣裳箱 を 貰いに(トリ)来て いた。

満洲語文語における「取りに(連れに)来る」を意味する動詞について(早田)

adarame genehe be sarkū sembi. (26回21丁表)

どうして行ってしまったのかしら」ということです。

一日、風裡言風裡語、聞得人説、來旺兒押出來、在門首討衣箱、不知怎的去了。

○cen-ging-ji anakū gaifi, jing taktu de hiyan okto -i hacin be  
陳敬濟が鍵を持って丁度上の階に香料や薬材の類を  
●gajime jifi, emu bade tunggalabuha manggi, (82回7丁表)

取りに来て、ひょっくり顔を合わせてしまったので、

不想陳敬濟正拏鑰匙上樓、開庫房門拏藥材香料、撞遇在一處。

○efu etuku ●gajime jifi, simbe genefi taktu -i tulergi uce be  
お婿さんが着物を取りに来ていて、あなたに行って二階の外側の戸を  
nei sembi, (33回7丁裏)

開けてって。 姐夫在那邊尋衣裳、教你去開外邊樓門哩。

○si-men-king puseli niyalma be hūlafī nure hūda be eje, cimari  
西門慶は店の人を呼んで「酒代をつけとけ、あした  
mini pulseli de jiha ●gajime jio seme hendufi, (6回4丁裏)

おれの店に金を取りに来い」と言ってから

西門慶呼酒保來：「記了帳目、明日來我舖子内支錢。」

目的語が同じ(ような)ものであっても、▲の時もあり●の時もありで、一般には(20)のように目的語の性質からこの区別の予想はできない。文脈・場面から判断しなければならない。

(20)

a) 固有名詞

○yamji biya mukdeke manggi, yala u-yuwei-niyang ni boode, cūn-meī be  
晩に月が上ると果して呉月娘の部屋に春梅を  
●gajime jihe. (85回16丁裏)

連れに来ました。 果然到晚夕月上時的分、走來領春梅。到月娘房中、

- si-men-king, jeng-ai-yuwei-el -i baru hendume, si cimari uthai  
 西門慶は鄭愛月兒に言います、「お前あしたは  
li-gui-jiyei be ▲gajime jifi, geli emu inenggi ucule. (76回40丁表)  
 李桂姐を連れて来て、また一日唱ってくれ」  
 西門慶分付鄭愛月兒：「你明日就拉了李桂姐，兩個還來唱一日。」

b) bithe (文書)

- lai-an tere duin solire bithe be ●gajime jihe, (72回39丁表)  
 来安がその四通の招待状を取りに来ました。  
 只見来安來取這四個帖兒，  
 ○jing gisurere de, ping-an bithe ▲gajime jifi alame,  
 話している最中に平安が書付け(名刺)を持って来て知らせます，  
 正説話，只見平安忙拿帖兒稟説 (72回18丁表)

c) menggun (銀子)

- si ilan aniyai ongolo sargan bucehe fonde, ere lu-da-ge de  
 おめえ、三年前に、かみさんが死んだときに、この魯の兄貴に  
 juwen gaiha tere gūsin yan -i menggun beye madgan inu kejine  
 借りたあの三十兩の銀子、元利はまた大層な額に  
 oho, enenggi sinde menggun ●gajime jihe, (19回15丁表)  
 なってるんだ。今日は お前さんに その銀子を 貰いに(トリ)来たんだ。  
 你三年前死了娘子兒，問這位魯大哥借的那三十兩銀子，本利也該許多，  
 今日問你要來了。  
 ○jai inenggi li-jy, hūwang-sy emu dere dasafi, ulgiyan -i uju, ilan  
 あくる日、李智と黄四が、一卓整えて豚の頭三  
 ergengge jaka belhefi, juwe tanggū yan menggun ▲gajime jifi, si-men-  
 牲を備え、二百兩の銀子を持って来て西門

満洲語文語における「取りに(連れに)来る」を意味する動詞について(早田)

king de weceme hisalaha. (79回54丁表)

慶に祭り酒を灌ぎました(供養しました)。

到次日, 李智、黄四備了一张插桌, 猪首三牲, 二百兩銀子, 來與西門慶祭奠。

d) hehe (女)

○ninggun biyai ice juwe de, si-men-king ni booci emu amba kiyoo

六月初二日に西門慶のうちから一挺の大轎を  
tukiyefi, duiin juru fulgiyan ša -i denglu jafafi hehe be ●gajime jihe,  
担ぎ, 四対の紅の紗の提灯を持って女を迎えに(ツニ)来  
ました。到六月初二日, 西門慶一頂大轎, 四對紅紗燈籠, (7回22丁裏)

○jing haha juse be takūrafi jala yabure hehe be gajifi, huhun -i hehe

丁度小厮を使いにして, 周旋屋を連れて来て, 乳母を  
udaki serede, holkonde siowei-soo-el emu huhun -i hehe be  
買おうとしていると, たちまち薛嫂兒がひとり乳母を  
▲gajime jihe. (30回19丁裏)

連れて来ました。正要使小厮叫媒人來尋養娘, 忽有薛嫂兒領了箇妳子來。

(20)のb)のbitheの場合, 片方には所謂対格助詞beがあり, 片方にはそれがな  
いが, 対格助詞の有無によってgaji- 或はgajime ji- の●か▲かの別を予想する  
ことは出来ない。(19)の四番目のetuku(着物)は, 不定格(casus indefinitus)  
のetukuであるが, (21)では「着物」が定格(casus definitus)のetuku beであ  
っても同じく「取りに来る」(●)になっている(19)の例も(21)に再度挙げる。

(21)

○efu etuku ●gajime jifi, simbe genefi taktu -i tulergi uce be  
お婚さんが着物を取りに来ていて、あなたに行つて二階の外側の戸を  
nei sembi, (33回7丁裏)

開けてつて。 姐夫在那邊尋衣裳，教你去開外邊樓門哩。

○Niyalma takūrafi terei guise etuku be ●gajime jihebi, (87回5丁表)

人を 使いにして 彼の 衣裳箱や 衣服 を 取りに来てました。

使人來討他箱子衣服。

『満文金瓶梅』全体における gaji- の頻度は余りに高いので（使役形 gajibu- 80例を含め、命令形 gaju を除いて1257例）、今すぐそのすべてについて見られないが、恐らく gaji- だけでは（ji- が後続しない場合は）「持って（取つて、連れて）来る」（▲）の意味で使われることが、「取りに（連れに）来る」（●）の意味で使われることよりも、遥かに多いと思われる。gajime ji- の場合は、用例数も限られているので全数調査が可能であった。即ち、『満文金瓶梅』全体で gajime ji- の出現度数は91で、其の中で「取りに（連れに）来る」（●）が38例、「取つて（持って、連れて）来る」（▲）が53例であった。やはり▲のほうが多いが、ji- の後接しない例を数えれば▲の比率がもっと多くなるであろう。なお gajifi ji- も gajime gene- も見つからない。因みに ganame gene- も gamame gene- も多数見いだされるが、ganame ji- や gamame ji- は一例も無かつた。

### 3. 使役形 gajibu-

gaji- に使役接辞 -bu- が後接した使役形 gajibu- の場合はどうであろうか。なお、gajibume ji-, gajime jibu-, gajibufi ji-, gajifi jibu- のいずれも見いだされなかつた。『満文金瓶梅』中 gajibu- の出現度数は80であった。このうち受身形とみられるものは一つも無かつた。命令形も含めて●が26例、▲が54例であ

満洲語文語における「取りに(連れに)来る」を意味する動詞について(早田)

った。

目的語が同じでも●と▲の両方が出ている gajibu- の例を(22)に挙げる。

(22) a) bithe (文書)

○tesei ergi de emu wen-soo-el sere niyalma be unggifi bithe  
あちら側では 文 嫂 兒 という 人 を 送って来て 書付け(謄本に  
●gajibuhabi. (3回17丁表)

当るもの)を取りに来させた。 他那邊有了箇文嫂兒來討帖兒,

○tang-heo-guwan be hūlafī, emu afaha jafu bithe ▲gajibufi hendume,  
堂 候 官 を 呼んで 一 枚 劄 付 を 持って来させて, 言います。  
喚堂候官取過一張劄付: (30回8丁裏)

b) cai (お茶)

○ioi-siyoo -i baru hendume, juleri ging-looye jifi,  
玉 簫 に 言います, 「表に 荆 老爺が いらっしゃったので,  
mimbe takūrafi, cai ●gajibuhabi (24回17丁裏)

おれに おいつけになって, お茶を もらいに来たんだ(トニコサセ)

叫: 「玉簫姐, 前邊荆老爺來, 使我進來要茶哩。」

○sakda niyalma be necihiyeme dorgi nahan de tebufi, ekšeme cai  
老 人 を なだめて 奥の 炕の上に 坐らせて, 急いで お茶を  
▲gajibufi omibuha. (78回35丁裏)

持って来させて 飲ませました。

安撫老人家, 在里邊炕上坐的, 連忙點了盞茶與他吃。

○cai be šahūrun omici ojarah seme ping-an be esukiyeme dahūme  
お茶 が 冷めて 飲めない と言って 平安 を となりつけ 改めて  
cai ▲gajibufi omibufi, ging-du-giyan teni aššafi genehe.

お茶を 持って来させて 飲ませました。 荆 都 監 は やっと 立上がつて 帰って  
行きました。 (24回19丁表)



嫌茶冷不好吃，喝罵平安另換茶上去吃了，荊都監纔起身去了。

c) menggun (銀子)

○tere fonde lai-boo-i nan-ging ni hūdai cuwan geli isinjifi, asihata

その頃 来保の南京からの荷 船 も 着き、小僧の

wang-hiyan be takūrafi cifun -i menggun ●gajibuha manggi, (60回3丁裏)

王 顯 を 使いに して 税金 の 銀子 を 取りに 来させましたので、

那時、来保南京貨船又到了，使了後生王顯上來取車稅銀兩。

○hūang-tai-ioi hashū ici ergi urse be hūlafi, juwan yan menggun

黄 太 尉 は 左 右 の 者 を 呼んで、十 兩の 銀子 を

▲gajibufi, hacingga takūršara urse de šangnafi, (65回32丁裏)

持って来させ、各種の使用 人 に ふるまい、

黄太尉令左右拿十兩銀子來賞賜各項人役、

#### 4. 命令形 gaju・gaji・gajime jio, gajibu

gaji と gaju は等しく、共に gaji- の命令形だとしている辞書が殆どであるが、正しくない(本稿末の「辞書類の記述」参照)。少なくとも共時的には、gaji- の命令形は gaju であり、gaji は意味がずれている。

なお、命令の意味の無い命令形が manggi に先行する形「～するやいなや」について、gaju manggi, gaji manggi, gajime jio manggi, gajibu manggi は少なくとも『満文金瓶梅』には見当らなかった。gaime jio manggi は下記の1例(23)を得た。

(23) alban de dosimbuci acara jaka be, si yooni gajime

お上 に 没収される はずの 品物 を お前は みんな 持って来て

eigen gaime jio manggi, mimbe herserakū, (92回15丁表)

嫁 に 来たら も う 俺なんか 相手にもしない

應没官之物，都帶來嫁了漢子。

満洲語文語における「取りに(連れに)来る」を意味する動詞について(早田)

gaju (度数138) は gaji- と同じく、原漢語の「拿來」「取來」等の訳語になることが多いが、gaji (度数184) は原漢語「要」の訳語が典型的である。gaji は「ほしい」「よこせ」「くれ」等にはほぼ当たり、gaju 「持って来い、取って来い、連れて来い」とは、内容がかなり違う。清朝時代の辞書の記述は不完全ながらなかなか面白い。その若干を(24)に挙げる。

②4○大清全書

gaju 未見之物叫人拿來。

gaji 已見之物叫人拿來。

○御製清文鑑

gaju ebsi benju sere be, gaju sembi.

【こつちに届ける というのを、gaju という】

gaji niyalmai baru minde bu sere be, gaji sembi.

【人 に対して私に与えよ というのを、gaji という】

○清文彙書

gaju 叫人拿來。

gaji 見了之物叫人拿來。

gaji が gaji- の命令形でない以上——場面により「寄越せ」は当然として、「持ってこい」▲になることもあるが——「取りに来い」「連れに来い」●の意味には全くならない。

さて、gaju が gaji- の命令形であり、gajime jio, gajibu が、それぞれ gajime ji-, gajibu- の命令形であるなら、これら三つの命令形 gaju, gajime jio, gajibu にも●と▲の両用法があるのか、ということが問題になる。gaju の『満文金瓶梅』中の全用例138例の中で●の意味(迎えに(ツレニ)来い)と考えられるのは(25)に挙げる5例だけで、他の133例はすべて▲(連れて来い、持って来い)である。

(25)

- 1) dai-an jihebi. si-men-king hendume, bi cimari  
玳安が来ています。西門慶は言います、「おれは『あした  
●gaju sehe kai, ere erin de geli ainu jihe (17回4丁表)  
迎えに來い(レヲツルニコイ)』と言ったんだぞ。今頃また何だやって来たんだ」  
是玳安來了。西門慶道：「我分付明日來接，這咱晚又來做甚麼？」
- 2) mimbe cimari erde ●gaju sehe seme  
『私にあしたの朝迎えに(ツルニ)來いとおっしゃいました』なんて  
alaha. (16回9丁表)  
答えてたわ。 「…他回說『…叫我明早接去哩。』…」
- 3) morin be amasi ũi-dz-giya de gama, yamji ●gaju (37回14丁裏)  
馬を(モトニ)獅子街に返せ(モツテイ)」。晩に迎えに(ツルニ)來い。  
把馬回到獅子街房子裡去，晚上來接，
- 4) si-men-king dai-an be morin be boode gama, cimari  
西門慶は玳安に「馬をうちに連れ帰れ(ツルテイ)。あした  
●gaju sehe, (17回2丁裏)  
迎えに來い(レヲツルニコイ)」とお願いしました。  
西門慶分付玳安回馬家去，明日來接。
- 5) li-gui-jiyei boode genefi, dai-an be morin gama, yamji  
李桂姐の家へ行って，玳安に「馬を返すんだ(モツテイ)。晩に  
okdome ●gaju seme hendufi, (19回23丁裏)  
迎えに來てくれ(ツルニコイ)と言って，分付玳安：「早回馬去罷，晚上來接我。」

5例とも「馬で迎えに來い」というところである。しかも，3)，4)，5)の例では，「馬を連れて帰れ，晩には(馬を)連れて來い」のようにも見える。しかし，漢語原文を見るとそうでもないと言えそうでもある。

morin gaji- という連続はそれほど強く結合してはいないようである。少な

満洲語文語における「取りに(連れに)来る」を意味する動詞について(早田)

くとも『満文金瓶梅』の中では morin gaji- 以外でも morin が動詞と結合して他動詞になっている例は見いだせない。即ち, … be morin という連続が本資料中には無いのである。したがって, morin gaji- で「(馬で) 迎えに来る」という意味になってはいないと言えよう。なお, morin be 「馬を」と gaji- (gaju を含む) の間に何も介在しないで morin be gaji- になっている例は本資料中では見いだせなかった。morin be と gaji- が何かを介在させて続く例は(26)の2例のみ見いだされた。

(26)

○dai-an morin be amasi boode ▲gajifi, (51回39丁裏)

玳安が馬を(モニ)うちに引いて帰って来て(ツレキ)

只見玳安兒回馬來家,

○ i morin be amsi ▲gajihā fonde, (16回9丁表)

あれが馬を(モニ)連れて帰った(ツレキ)ときに,

先是他回馬來家,

gajime ji- の命令形 gajime jio では, 全21例中●が5例, ▲が16例である。命令形 gaju の●の用例は, 数からいっても gaju 全138例中の5例であり, その内容も(25)に見たように非常に限られていたのに対して, 命令形 gajime jio の●の用例は, 僅か21例しかない gajime jio 中の5例で, 内容も(27)に見るように多様である。

(27)

《●の例》

○cimari mini puseli de jihā ●gajime jio (6回4丁裏)

あした私の店に金を取りに来てくれ。明日來我鋪子内支錢。

○te kiyoo be amasi unggī, cimari mimbe ●gajime jio se. (14回23丁表)

今轎を返しなさい, あした私を迎えに(ツレ)来て(コイ)と言ってね。

轎子回去, 教他明日來接罷。

- biydari booi turigen -i jiha udu oci, ubade ●gajime jio  
 毎月 家 賃 のお金が幾らであっても、ここに 取りに來なさい。  
 毎月該多少房錢，來這裡，(93回9丁裏)
- menggun eden ofi hendume, si cimari erde ●gajime jio  
 銀子が足りないので仰いました，「あんた あしたの 朝 取りに來てね(コイ)」  
 欠他…錢銀子約下他：「明日早來取罷。(90回8丁表)
- mimbe menggun ●gajime jio, amba nainai de aca seme henduhe bihe.  
 私 に、銀子を 取りに來い、大 奥さま に 見え、と 仰っていました。  
 許下今日教我來取銀子，就見見大娘。(90回12丁裏)

《▲の例》

- siwei gege be ▲gajime jio (45回18丁裏)  
 雪おねえさんを 連れていらっしゃい。 請雪姑娘也走走。
- si boode genefi, ing-cūn be hūlafi jui -i ajige cirku, jijiri be  
 お前，部屋に行つて，迎 春 を 呼んで 坊や の 小 枕 と 莫 塵 を  
 ▲gajime jio se. gu-pai be inu gaju. (52回33丁表)  
 持つて來るように(モチコト)言つて。骨 牌 も 持つて來てね。  
 你去叫迎春屋裏取孩子的悄枕頭并涼蓆兒來，就帶了骨牌來，
- lio doho be ▲gajime jio (2回36丁裏)  
 劉おめくらさんを 連れて來てね。 叫劉瞎來
- fu bithe, okto be ▲gajime jio (40回8丁裏)  
 お札 と お薬 を 持つて來ておくれ。 帶了符藥來。
- mini jijiri, cirku be ▲gajime jio (27回19丁裏)  
 私の 莫塵と 枕 を 持つて來てね。 把涼蓆和枕頭取了來。
- juwe juru sain ningge ▲gajime jio (95回24丁裏)  
 二 組み いい の を 持つてらっしゃい。 帶兩副好的

満洲語文語における「取りに(連れに)来る」を意味する動詞について(早田)

- si cimari terebe majige ▲gajime jio (40回3丁裏)  
あなた あした その人を 一寸 連れて来てね。 你到明日請他來走走。
- nure ▲gajime jio (75回30丁表)  
酒 を 持って来い。 帶些酒來
- pan-mama be suwaliyame solifi ▲gajime jio (14回20丁裏)  
潘おっかさん も一緒に お招きして (ツテ)来てね。 連…潘姥快請來,
- sunja jiha menggun uhufi ▲gajime jio (13回3丁裏)  
五 錢 銀子を 包んで 持って来い。 討五錢銀子封了來。
- kiyoo de tebufi amargi duka deri ▲gajime jio (49回11丁裏)  
轎 に のせて 裏 門 から 連れて来なさい 打後門裏用轎子擡了來
- sini ilaci eniye be yuwei-kin ▲gajime jio se (27回7丁表)  
お前の 三 奥さまに 月 琴を 持って来い と言え。  
請你三娘來，教他彈回月琴
- cimari erde morin ▲gajime jio (36回13丁表)  
あしたの 朝，馬 を 持って来い。 明日早拏馬來接。
- yamjishūn morin ▲gajime jio (59回6丁裏)  
夕 方 馬 を 持って来い。 晚夕騎馬來接。
- amba gegei jibca be inu ▲gajime jio (46回14丁表)  
大 おねえさまの 毛皮の外套 も 持ってらっしゃい。  
把大姐的皮襖也帶了來。
- juwe nofi be inu ▲gajime jio (32回2丁裏)  
ふ たり (を) も 連れて来い。 再替我叫兩箇，

使役命令形 gajibu は、『満文金瓶梅』では残念ながら3例しかなく、そのいずれも(28)のように●，即ち「取りに来させろ，連れに来させろ」であった。命令形以外の gajibu- は全77例中，●が23例，▲が54例であるから，わずか3例しか出ていない命令形 gajibu がすべて●であっても，この少数例が，多数派の▲

でなく少数派の●であるが故に一層、当時の満洲語に多数派の▲の意味の gajibu と少数派の●の意味の gajibu が両方存在していたと考えるべきであろうと思われる。

(28)

○looye si mimbe hūlaci erdeken -i  
旦那さま、あたしを呼んで下さるんでしたら、早めに  
●gajibu, (77回19丁裏)  
呼んで下さいね(トニコサロ)。爹若叫我，蚤些來說。

○be ubade menggun bošome baha manggi, niyalma takūrafi  
当方で盗品(銀子)を取り戻した上で(そちらから)人を遣わして  
●gajibu (98回9丁表)  
受取りに来るように(トニコサロ)。待我這里追出銀兩，伺候來領。

○niyalma jafabume ungihe, menggun bošome baha manggi,  
(犯)人を捕えに(捕り手を)差し向けた。銀子が戻ったら、  
takūrafi ●gajibu sehe, (98回9丁表)  
使いの者をよこして受け取りに来るように(トニコサロ) とのことでした。  
即時准行，拏人去了。待追出銀子，使人領去。

## 5. 結論

gama-・gana- に比して殆ど gaji- のみの話になり、それも▲に比して度数の少ない●の用例を多く挙げることになったが、それによって(2)の?の部分埋める語形は、その上側のものと同じ形 gaji- である、ということが示されたと思う。勿論、他にも方向移動に関する動詞は多々あるし調査を重ねなければならないが、今回は一応、語源的には gai- + -ne-, -ji- とも見えるものに限った。(2)は結局(29)のようなことになるわけである。

	－行く	－来る
(29) 取って(連れて)－	g a m a -	▲ g a j i -
取りに(連れに)－	g a n a -	● g a j i -

この▲gaji-と●gaji-とは同音異義語なのか、同一語の包含する意味の両極端を表すものなのか、という問題については筆者は今すぐ解答を出す用意が無い<sup>1</sup>。しかし、少なくとも▲gaji-の多様な和訳語「取って来る、持って来る、貰って来る、連れて来る、(馬を)引いて来る、呼んで来る、迎える、娶る…」は、く(人であれ物であれ)トツテクル〉であり、●gaji-の和訳語「取りに来る、貰いに来る、連れに来る、呼びに来る、迎えに来る、…」等はく(人であれ物であれ)トリニクル〉である。その使役形や命令形もまた gajime ji- も、▲と●に対応する二つの意味を持っている。(使役命令形のみ例が乏しい) それに対して、語源的に gaji- から来たと見える命令形単独動詞 gaji (和訳語としては「欲しい、くれ、よこせ…」)は共時的には gaji- の活用形に入らない。gama- や gana- についても更に調べる必要があるのであるが、特に gama- は、既述の「連れて行く、取って行く、持って行く…」から発展して、「片づける、処理する、処置する、執行する、(死)刑に処する…」等の意味で用いられるが、どの辺りで別の単語になるというべきか、今後種々見てみたいと思っている。

もう一度整理すれば、gaji-には、gaji<sub>1</sub>- (▲)とgaji<sub>2</sub>- (●)とがある。

<sup>1</sup>これは日本語の温度形容詞、サムイの反意語アツイ<sub>1</sub>と、ツメタイの反意語アツイ<sub>2</sub>とに多少似ている。サムイとツメタイが別語であることは、音形と意味の両方の違いによって保証されているが、アツイ<sub>1</sub>とアツイ<sub>2</sub>は、音形が同じで、温度が高い、という大きな特徴を共有しているので、別語すなわち同音異義語か、一つの単語の多義的な意味の両極端の使い方なのか、問題である。アツイ<sub>1</sub>は程度が最高でも火傷はしないのに対し、アツイ<sub>2</sub>は一般に火傷する温度である。



そして、それらの使役形にも *gajibu*<sub>1</sub>- (▲) と *gajibu*<sub>2</sub>- (●) とがあり、複合形 *gajime* *ji*- にも *gajime* *ji*<sub>1</sub>- (▲) と *gajime* *ji*<sub>2</sub>- (●) とがある。これらそれぞれの命令形にも、*gaju*<sub>1</sub> (▲) と *gaju*<sub>2</sub> (●), *gajibu*<sub>1</sub> (▲) (恐らく) と *gajibu*<sub>2</sub> (●), *gajime* *jio*<sub>1</sub> (▲) と *gajime* *jio*<sub>2</sub> (●) の区別が認められる。命令形 *gajibu* の例が少なすぎる(3例) と、*gaju*<sub>2</sub> (●) の用例の限られていることが多少不安である。命令専用動詞 *gaji* は *gaji*<sub>1</sub>- (▲) のパラダイムにも、*gaji*<sub>2</sub>- (●) のパラダイムにも含まれない。ただ、意味的には▲に近い。●に類する意味は全く無い。「*gaji* と *gaju* は等しく、共に *gaji*- の命令形である」という記述は不適當である。また *gaji*- と *gajibu*- とで▲と●の区別の有無に違いがあるように記述するのも正しくない。*gaji*- にも *gajibu*- にも▲と●の区別は存するのである。ただし、いずれの場合も、▲と●の区別は、場面・文脈からしか得られない。

#### 付. 辞書類の記述

本稿の筆者による書入力を【 】に入れて示す。-*mbi* は現在終止語尾。*gaji* との違いの意味で、動詞 *bu*-「与える」の命令形 *bu* も合わせ載せた。

#### ○ 大清全書(康熙22年【1683】序)

<i>gamambi</i> - <i>ha</i>	區處之意。望人從寬之從。從公之從。拿去。
<i>gama</i>	令人拿去
-----	
<i>ganambi</i> - <i>ha</i>	取去了。
<i>gana</i>	去取。去迎。
<i>ganarakū</i>	不取去。
<i>ganabumbi</i>	叫他取去。
<i>ganaburakū</i>	不叫取去。
-----	
<i>gajimbi</i>	拿來語乃已見之物用他。行取。

満洲語文語における「取りに(連れに)来る」を意味する動詞について(早田)

gajibumbi	【無し】
gaji	已見之物叫人拿來。
gaju	未見之物叫人拿來。
gajireo	乞拿來。
gajiha booi anggala	所携家口。
bu	輿。給。使之。被之。自然如何意。【「使之」以下は、 動詞 bu- の命令形 bu の意味でなく、接辞 -bu- の意味である】

○御製清文鑑(康熙47年【1708】序)

gamambi	yaya jaka be gaifi genere be, gamambi sembi. 【「どんなものであれ、持って(取って、連れて)行くの を、gamambi という】】
gama	ubai jaka be gaifi gene sere be, gama sembi. 【「此処のものを、持って(取って、連れて)行け、という のを gama という】】
ganambi	gūwa bade bisire jaka be gajire be, ganambi sembi. 【「他所にあるものを gaji- <持って~取って~連れて、来る> のを ganambi という】】
gana	gūwa ba -i jaka be gaju sere be, gana sembi. 【「他所のものを gaju <持って~取って~連れて、来い> とい うのを gana という】】
ganabumbi	niyalma unggifi ganara be, ganabumbi sembi. 【「人を遣って gana- するのを ganabumbi という】】
gajimbi	gūwa ba -i jaka be ubade isibure be, gajimbi sembi. 【「他所のものを此処に齎すのを gajimbi という】】
gajibumbi	【無し】
gaji	niyalmai baru minde bu sere be, gaji sembi.

【人に対して、私に与えろ、というのを gaju という】

gaju ebsi benju sere be, gaju sembi.

【こっちに届けろ、というのを gaju という】

bu aika jaka be niyalma de afabu sere be, bu sembi.

【何かものを人に渡し任せろ、というのを bu という】

geli gala de jafaha jaka be, gūwa de alibu sere be, inu bu sembi.

【また、手に持っているものを他人に差出せ、というのも bu という】

○満漢字清文啓蒙（雍正8年【1730】序）

gamambi（巻3，58丁裏） 處事。裁奪。又拿去。

emu anan -i gamambi（巻3，60丁表） 按着次序。

gamara（巻4，40丁裏） 處作語解似 gamara 處事裁處。又拿去。

obure 作之。為之。以為。當作。

ai ganaha（巻3，54丁裏） 何涉。作什麼去。

ai gajiha（巻3，54丁裏） 何恃。作什麼來。

○A.Wylie. 1855 Translation of the TS'ING WAN K'EMUNG, a Chinese

Grammar of the Manchu Tatar Language with Introductory Notes on  
Manchu Literature. Shanghai.

(p.220) Gamampi. To engage in any work. To determine upon.  
To take away.

(p.223) Emu anan -i gamampi. Everything in proper order.

(p.280) Undertaking の所

Gamara. Undertaking an affair.

Deliberating on an undertaking. Taking away.

Opure. Doing. Making. In order to. Should be done.

(p.210) Ai ganaha? What has that to do with it? What does he want!

(p.211) Ai gajiha? What does he depend on? What is he come for?

○清文彙書 (乾隆16年【1751】初刻)

gamambi	區處。望人從寬之從。從公之從。拿去。
gama	此處之物令拿去。
gamabumbi	使拿去。被拿去。
-----	
ganambi	去取。取去。
gana	去取
ganabumbi	使去取。
-----	
gajimbi	拿來【。】行取
gajibumbi	使拿來。
gajireo	乞拿來。
gaju	叫人拿來。
gaji	見了之物叫人拿來。
-----	
bu	與。給。用于字中爲使字。又爲被字

○韓清文鑑

gamambi	yaya jaka be gaifi genembi 拏去 gajye gada
-----	
ganambi	gūwa bade bisire jaka be gajimbi 取去 gajirra gada
-----	
gajimbi	gūwa ba-i jaka be ubade isibumbi 拏來 gajye oda
gaji	niyalmai baru minde bu sembi ○一云 gaju 又 benju 使拏來 gajye ora ○又 dago

○Gabelentz, H. C. von der (1864) Sse-schu, Schu-king, Schi-king  
in Mandschuischer Übersetzung mit einem Mandschu-Deutschhen Wörterbuch.  
II. Heft. Wörterbuch. Leibzig.

<u>gamambi</u>	einen Platz geben, stellen, hinsetzen; bringen, führen; mit sich nehmen, wegnehmen, erbeuten, gefangen nehmen; bewahren; übergeben, anvertrauen; belegen (mit Strafe); berathschlagen; beschließen, entscheiden; begehren, suchen; unternehmen;
----------------	---

vollbringen, das Nöthige in einer Sache thun; vermitteln,  
nachgeben; sich herablassen; ohne Grund loben.

-----  
ganambi suchen, holen, abholen; berufen, einladen, citiren;  
aufnehmen, annehmen; wieder erlangen; untersuchen;  
tödten.

ganabumbi holen lassen; annehmen lassen.

-----  
gajimbi bringen, holen; erobern.

gajibumbi bringen lassen, holen lassen.

○Zaxarov, Ivan (1875) Polnyj Man'žursko-russkij Slovar'. Sanktpeterburg.

gama-mbi; ha, ra, be, de; beru, prinimaju proč', unošu, ubiraju, prjaču;  
otnošu; rešaju delo, privožu v ispolnenie; ustupaju, slušajus' soveta;  
izvinjaju, proščaju vinu; snisxožu; sm. waliyame gamambi, sm. faksikan-i  
gamambi; fafun-i gamambi.

-----  
-me genehe; pošel ubrat', prinjat'.

-----  
gana-mbi; ha, ra, be, ot gaimbi; idu vzjat', prinesti.

-----  
-bumbi; prikazyvaju sxodit' za čem, posylaju vzjat'.

-----  
gaji-mbi; ha, re, be, de; ot gaimbi; prinošu, podaju sjuda, dostavljaju.

sm. morin —

-bumbi 【無し】

-----  
-ha booi anggala; semejstvo vzjatoe v plen, založinki.

gaji, sx. gaju, povel. ot: gajimbi; podaj mne! podaj sjuda! prinesi! sx. minde  
bu.

gaju, sx. gaji, povel. ot: gajimbi; podaj! prinesi sjuda!

-----  
bu; povel. ot: bumbi;

○Harlez, C. de (1884) Manuel de la langue mandchoue. Paris.

Gama-mbi, placer, amener, conduire, emmener, procurer, confier, conférer  
(une place), saisir, traiter, procéder, agir, entreprendre, exécuter,

満洲語文語における「取りに(連れに)来る」を意味する動詞について(早田)

délibérer, décider, désirer: céder la place, cesser.

Gaji-mbi, chercher, recueillir: prendre, apporter, reproduire, publier.

【ganambi は無い】

○羽田亨 (1937)『満和辞典』京都。

Gamambi 持って行く. 取って行く [12. 取送: 拏去]

Gama 持って行け. 取って行け [12. 取送: 拏去]

Gamabumbi 持って行かせる. 持って行かれる [彙: 使拿去. 被拿去]

Ganambi 取りに行く [12. 取送: 取去]

Gana 取りに行け [12. 取送: 使取去]

Ganabumbi 取りに行かせる [12. 取送: 使人取去]

Gajimbi 持って来る. 取って来る [12. 取送: 拏來]

Gajibumbi 持って來させる. 取り來させる [彙: 使拿來]

Gaji 持って來い. 取って來い [12. 取送: 使拏來]

Gaju Gaji に同じ [12. 取送: 使拏來]

Gajireo 持って來てくれようか. 持って來て貰ひ度い [彙: 乞拿來]

Bu 1. 與へよ. 給與せよ [12. 取與: 使給] 【2. 以下略】

○Hauer, Erich (1952-1955) Handwörterbuch der Mandschusprache. Tokyo-Hamburg-Wiesbaden.

gamambi 1) wegschaffen; 2) einen Platz anweisen, anordnen, regulieren; 3) bearbeiten, betreiben, verfahren; 4) erledigen; 5) nachsehen, entschuldigen. 【用例略】

gama Imperativ von gamambi.

gamabumbi 1) wegschaffen lassen; 2) weggeschafft werden.

ganambi (gaime + genembi) nehmen gehen, holen. 【用例略】

ganabumbi holen lassen.

gana Imperativ von ganambi.

gajimbi (gaime + jimbi) (her)bringen. 【用例略】

gajibumbi 1) bringen lassen; 2) gebracht werden.

gaji Imperativ von gajimbi. Dasselbe wie gaju.

mini etuku gaji bring mein Kleid! (6 『満文金瓶梅』)

gaju Imperativ von gajimbi.

coman gaju bringt große Becher! (6 『満文金瓶梅』)

-----  
bu 1) Imperativ von bumbi; 【2) 以下略】

○Cincius, V. I. (1975-1977) Sravnitel'nyj slovar' tunguso-man'čžurskix jazykov. Materialy k étimologičeskomu slovarju. Leningrad.

gaji- (gaju- Sib 【錫伯語】) prinosit', dostavljat';

○Norman, Jerry (1978) A Concise Manchu-English Lexicon. Publications on Asia of the School of International Studies, 32. Seattle-London.

gamambi 1. to take (to another place)

2. to manage, to look after, to deal with, to execute (an order), to regulate, to dispatch

gamabumbi caus. of gamambi

-----  
ganambi 1. to fetch, to go to get 2. to gather

-----  
gajimbi (imperative: gaju) to bring, to bring along

gajibumbi caus. of gajimbi

gaji see gaju

gaju Imperative of gajimbi.

○季永海・劉景憲・屈六生 (1986) 『満語語法』北京

gamambi 拿去, 区処

gajimbi 拿來

ganambi 取去, 提 (水)

○福田昆之 (1987) 『満洲語文語辞典』横浜 【この辞書の [G] は『満文金瓶梅』】

gamambi 〔動〕 (1) 持って行く。持参する。(2) 連行する。連れて行く。運ん

満洲語文語における「取りに(連れに)来る」を意味する動詞について(早田)

で行く。ひきつれる。たずさえる。(3)呼びにくる。案内する。(4)処理する。取りはからう。(刑に)処する。(5)執務する<U【上原久 満和にない語のメモ】>。従事する。(6)調停する。解決する。(7)調査する。検査する。【用例略】

gama gamambi の意志形。[G1911a]

gamabumbi 〔動〕(1)持って行かせる。連れて行かせる。(2)持去られる。連れ去られる。【用例略】

ganambi 〔動〕[取去]。取りに行く。もらいに行く [G1604a]。呼び寄せる。【用例略】

gana ganambi の意志形。

gajimbi 〔動〕(1)持ってくる。持参する。連れてくる。連れにくる。(2)ひったてる。(3)もたらす。(4)返してもらう。(5) (馬を) 引く。【用例略】

gajibumbi 〔動〕(1)持って来させる。持参させる。連れて来させる。(2)持参される。【用例略】

gaji = gaju. gaimbi 【gajimbi?】の意志形。寄越せ。[G1915b]。返せ [G1919a]

gaju gajimbi の意志形。【用例略】

bu (1)bumbi の意志形。【(2)以下略】

○劉厚生・関克笑・沈微・牛建強 (1988) 『簡明満漢辞典』 河南大学出版社

Gamambi 〔動〕 ①拿去②従依③区処

—— gidambi 藏匿

Ganame gaimbi 【gaimbi かと思われるものの綴りが怪しい】 行取

—— gajimbi 召至

【gajimbi の見出項目は無い】

○『漢錫簡明対照詞典』(1989) 烏魯木齊 新疆人民出版社

【漢語引きなので思いつくままに漢語を引いてみたが、以下のもの位しか得られなかった。『満文金瓶梅』に「取りに(連れに)来る」の意味でよく出てく



る「来取」「来討」「来接」の見出項目は無い】

行取	ganambi gajimbi 【ママ】
取去	ganambi
去取	gana
拿去	gamambi, gama
拿来	gajimbi, gaji

===== 以下口語・錫伯語資料 =====

○山本謙吾 (1969) 『満洲語口語基礎語彙集』東京【音声記号略】

Gaməmə もっていく. to carry off, to take along.

文: gama- 例: tiucivumə Gaməci 'ojərəqu 《持出禁止》

Ganəmə 取りに行く. to go for something. 文: gana-

Gajəmə(8), Gajimə(6) (いって) もってくる. to bring, to fetch.

文: gaji-

例: Gajə'ee 《とってこい, もってこい》; Gajimə genəmə 《(物を) とり  
に行く》; genəmə~ (=Gajimə) 《いってもってくる》

○Kałużński, S. (1977) Die Sprache des mandschurischen Stammes Sibe  
aus der Gegend von Kuldscha. Warszawa.

gama- 'weschaffen, betreiben, bearbeiten, erledigen, mitnehmen'

gaʒi- (passim), gaʒ- (11) 'bringen, herbringen, holen';

gaʒu 'bring! bringet!'

○李樹蘭・仲謙・王慶豊 (1984) 『錫伯語口語研究』北京

【//の中は文語形であるが、綴字を一般の形に改めた】

Gamem /gamambi/ 帶走, 拿去。

Gazhim /gajimbi/ 拿来。

Gazhivem /gajibumbi/ 使拿来。

On a classic Manchu verb meaning 'come to get'

HAYATA, Teruhiro

The four semantically correlated Manchu verbs meaning 'to take (away)', 'to bring (along)', 'to go to get', and 'to come to get' have been only incompletely cited in dictionaries past and present, Chinese and foreign. Although the Manchu verbs corresponding to those in (1) below are cited as in (2), the last verb, meaning 'to come to get', is not given.

(1)	'go'	'come'
'get and'	take (away)	bring (along)
'in order to get'	go to get	come to get
(2)	gama-	gaji-
	gana-	?

Only one dictionary gives a citation, though incomplete, concerning the fourth verb. Fukuda's Manchu-Japanese Dictionary (1987) refers to gaji- as 'to come to get or call for a person or people', in addition to 'to bring'. All foreign dictionaries refer to both gaju and gaji as the imperative forms of the verb gaji- 'to bring'.

The present author shows, based on the many uses of these words, especially gaji-, gajime ji- (gajime is the infinitive of gaji-, and ji- is a verb meaning 'to come'), gajibu, gaju, and gaji, in the Manchu version of Gin-ping-mei (The Golden Lotus), that the fourth verb in (2) is gaji-, i. e., gaji<sub>2-</sub>, in contrast to gaji<sub>1-</sub> 'to bring' as in (3); that the causative form gajibu- and the

imperative form gaju also should be divided into gajibu<sub>1</sub>- and gajibu<sub>2</sub>-, and gaju<sub>1</sub> and gaju<sub>2</sub>, respectively; and that gaji meaning ‘give me, I want’ is, at least synchronically, not an imperative form of gaji-, lacking the distinction between \*gaji<sub>1</sub> and \*gaji<sub>2</sub>.

(3)

gama-	gaji <sub>1</sub> -
gana-	gaji <sub>2</sub> -

Occurrences of gaji<sub>2</sub>- ‘to come to get’ are not rare, but far fewer than those of gaji<sub>1</sub>- ‘to bring’. Distinguishing between the two, gaji<sub>1</sub>- and gaji<sub>2</sub>-, is not difficult, but possible only from the context.